



銀相
庭會
社行
源
論

898



114
A1125
1



原論
訪導論
第一篇

第一章

ナレヲナル、エコノミ、トハ國民一般經濟的事業ノ

道ヲ講明スルノ學ナリ此經濟的事業ハ然テ人生必須ノ需用ヲ充足スル為メニシテ人タルモノ一人トシテ此需用アラサレハナシ而シテ之ヲ充足センニハ各其勞カニ賴ラセラル得サレナリ
斯ノ如シト雖モ人ノ需用ノルハ終古一定ナラズ
アラズ隨テ經濟ノ道モ亦世代ヲ逐テ變易セシ故
今茲ニ文明ノ進歩ニ隨テ經濟ノ階級ヲ區別スル

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

モノナリ
上古草昧ノ世ハ固ヨリ方今ニ至ルト虽モ野蠻人民ノ行フ所ハ尚ホナチユラヒル。ウイルトレヤフト天然經濟ニレテ即チ品ト品トヲ交換スルニ止マレリ世運漸ク逐テ文明ニ進ミ人民ノ需用増加スルニ隨ヒ品換ヘ、不便ヲ曉テ之ニ代フルニ一般交易ノ媒介品トレテ貨幣ヲ創造スルニ至リ始テ「ゲルドウイ」ルトレヤフト「貨幣經濟」ノ道起レリ然レ氏經濟的事業進步ノ最上点ハ則チ「クレジット」ウイルトレヤフト「信任經濟」ニアリテ方今銀行及ヒ相場会社ノ經濟上ニ於テ大有勢ノ活動ヲ起セルハ要スルニ信任經濟ニ根基セルモノナリ故ニ本編ニ專ク信任經濟ノ旨ヲ明了ニ鮮釈セントテ要ス

此旨ヲ論スルニ先チ暫ク爰經濟論中二三ノ要旨ヲ擧テ之ヲ理解ス然ラサレハ以下本編ニ説明スル所ノ旨ヲ恐ラタハ隔靴搔痒ノ憾アラントテ

第二章

經濟論中ノ最モ緊要ナルハ價直論ニシテ此價直ナルモノハ然テ物品ニ有スル利用ノ多寡ニ由テ生スルモノナリ往昔人民ノ需用未タ多カラサルノ世ニ方リ不用ノ品ヲ以テ必須ノ品ト交換スルニ其價直ノ生スルハ我ニ得ント欲スル物品ノ切要欠ク可カラサルノ度ニ在リ例ヘハ人アリテ一張ノ獸皮ヲ欲セバ之ニ易フルニ二頭ノ羊ヲ以テセサルヲ得ス是全ク其人羊ヲ有スル饒多ナルモ衣服ヲ製スル獸皮ニ欠クヲ以テ其需要ニ切ダレノ事情アルニ因

大義旨

テナリ
人民交際ノ道漸ク開進スルニ隨ヒ交易ノ為メ一定
ノ價位ヲ有スル一般ノ媒介品ヲ要スルニ至ル其初
ハ家畜ヲ以テ價直ヲ量定スルノ品トセリ是甚ク驚
訝スヘキニ似テ左ニアラス蓋シ漂泊人種ハ家畜ノ
流用最モ便宜ナリシ故之カ比例ヲ取レ為メ牛一頭
ノ價ヲ羊六頭馬一頭ノ價ヲ羊十頭ト呼フニ至レリ
然レモ凡テ物品ノ估價ハ一物ノ真價ヲ以テ度トシ
他ヲ比較量定セシモノト知ルヘレ
又古ヘ人民ノ家畜ヲ以テ交易ノ媒介品トセリ信
ヲ置クニ足ルモラアリ如何トナレハ當時未タ全ク
貴金屬即チ金銀ナルモノ知ラス或ハ之ヲ知ルモノア
ルモ殆ト知ラサルニ近キヲ以テ家畜ノ外ハ運用ニ

便ナレモノアラサルカ故ニ穀物ヲ購求セシ為メ養
養ノ獸群ヲ驅逐レテ其品物所在ノ地方ニ行キタリ
レナリ

第三章

又物品中其形体ノ過少或ハ過大ニレテ直ニ交易ス
ルニ不便ナル物アリ故ニ是カ為メ其信任ヲ與ヘタ
レ隣人或ハ相識ニ豫メ交易ノ約束ヲ為シ而シテ過
少ナル物ハ漸次ニ之ヲ彼ニ与ヘ然ル後彼ヨリ其數
量ニ適スル我カ需要物ヲ一時ニ領受シ過大ナル物
ハ一時ニ之ヲ彼ニ与ヘ然ル後彼ヨリ其數量ヲ滿ル
迄漸次ニ我カ需要物ヲ領受ス此ニ由テ之ヲ觀レハ
グレシツトハ他人ノ為メ我ヨリシセシトニ對シ彼
モ亦此ニ報スルヲ尽セシノ約ヲ我ニ於テ信認

スレノ幾ニシテ実ニ其貴重ナルヲ知ルヘシ

第四章

中古ニ至テ上古ノ交易媒介品ニ代ム一般ノ交易媒介品トシテ貨幣ナルモ起レリ然レバ其初貨幣貴金屬ヲ以テセス獸皮其他ノ品ヲ用ヒシカル後金屬ヲ用ヒ遂ニ貴金屬即チ金銀ヲ一般ニ用ナルニ至レリ上古如達爾ノ人民ハ獸皮ニ價位ヲ印セシ皮幣ヲ用ヒタリ是レ即チ貨幣ノ信標ナリ上古ニモ既ニ金銀ノ貨幣即チ交易媒介品ニ用ヒル所アレハ歴史上明徴セリ非尼西人民ハ金銀ノ外ニ錫ノ貨幣ヲ用ヒテ當時其價格金銀貨ト殆ト同位ナリ然レ所以ハ當時非尼西人民ノ是ヲ錫島現即時

倫英ヨリ開採シテ自國ニ輸入シレハナリ又士巴爾達人民ノ鉄錢ヲ用ヒレトハ是特ニ政略上ヨリ出ルノミナラス全ノ貴金屬ノ欠乏セシヲ以テナリ然レバ判古尔瓦氏士巴爾達立法者ノ創意ニ由リ特ニ鉄錢ヲ用ヒテ金銀貨幣ニ代ヘシヲ以テ考ルキハ其以前貴金屬ノ貨幣ヲ用ヒレトヲ知ルヘシ

第五章

往昔ハ貨幣ヲ算スルニハ箇數ヲ以テ計ラヌレテ重量ヲ以テ推レリ然レバ衆人市ニ上ルニ推衡ヲ攜帶スレハ甚ク不便ナレヲ以テ此時已ニ衆人ノ為メ金銀ヲ秤量スル一商業興レリ當時或ル人執フ街頭ニ据ヘ之ニ推衡ヲ装置シ以テ他人ノ為メ金銀ヲ秤量レ共正否ヲ鑒別シ且ソ外

國貨幣及ヒ金銀塊ヲ内國貨幣ニ交換シ或ハ其要需ニ應シ外國貨幣ニ交換スルニ金銀塊ヲ以テセリ是レバンケル商業ノ起原ナリ

第六章

又此商業ヨリ及ホレ来レル一商業アリ其ハバンケルニ於テ前項ノ業ヲ營ムニ必ス許多ノ貸財ヲ有セサルヲ得サレ可カラス又衆人大ニ其人ヲ信據セシテ以テ市ヲ終レ迄各自得ル所ノ財ヲ委託シバンケル之ヲ保護看守セリ故ニ其勞ト費用トヲ償フ為メ委託者ヨリ瑣少ノ金ヲ受ケタリキ是レ委託金事務即チ方今行ハル所ノ無利子委託金預リ事務及ヒ防彼委託金預リ事業ノ濫觴ナリ然レニ又物品ヲ賣買シテ價金授受ノ際買者其價金

ヲ委託金ヨリ拂ハント欲シテバンケルノ許ニ至リ又賣者得ル所ノ價金ヲ委託セシト欲シテバンケルノ許ニ至ルノ煩ヲ省ク為メ買者ヨリ賣者ヘ直ニ其價金ヲ典ヘス之ニ代フルニバンケルニ宛タル為替証ヲ典ヘババンケルハ是ヲ以テ其金額ヲ買者ニ委託金ヨリ遷シテ賣者ニ委託金ニ加フルノ便ヲ起セリ是委託金書換事務ノ始メナリバンケル相對ノ授受モ亦斯ク如ク為レ只端數金ノニ限リ現金ヲ以テセリ此方法ヨリレテ近年ニ至リアウクサブレルニ結算日集會一週起リ倫頓北亞洲維也納ニハ清美場集會起リテ逐日此事務盛大ニ行ハレリ

第七章

銀行ノ証券其起初ハ前項ノ端昏証ニ肖似セリバン

ケルニ於テ貨物ヲ購求セシキハ價金ヲ直チニ高估ニ
交付セスレテ其金額或ハ幾分ヲ記載セシ証票ヲ諒
高估ニ附與ス而シテ後日諒証票ヲ携來ル者ニ對シ
其金額ヲ拂ヘルナリ
此証票ハ數々讓渡ヲナスルヲ得但シ他人ニ讓渡スル
ハ其讓與人ニ之ニ裏合ヲナセリ
ヒガチル氏ノ説ニ從ヘハアムステルダムノ銀行ニ
於テハ千八百年紀中尚古ノ如キ証票ヲ發シ之ニ所
有主ノ名ヲ記シ或ハ其人ノ吩咐ニ從ヒ他ニ拂フ
受^キ人証^ト批^シノ為メ裏合ヲ為セント然ルニ亦來沿革ヲ
經テ無記名ノモノトシ何人ヲ論セス是ヲ所有セ
者ニ其金額ヲ拂フトナレリ是レ則チ方今行ハル

銀行証票ノ狀ヲナセルモノナリ
此無記名証票ヲ發行セシル來バンケルト委託金主
トノ情況大ニ一變セリ如何トナレハ此証票ハ他人
ヨリ委託ノ受^ル現金ノ代理ヲナレテ通用スルカ
故ニバンケルニ於テ委託金主ニ其証票ヲ与ヘテ后
ハ此委託金委託者ノ權内ニアラサスレテバンケルノ
權内ニアリ然レババンケルハ此証票ヲ交換スヘキ
義務ヲ負擔スルヲ以テ委託金主ニ對シ借主トナ
ラス其証票ヲ所有スル者ニ對シテ借主トナレナリ
第八章
現金^送送ニ代フルニ銀票ヲ以テスルハ債主借主ノ
為ニ運輸ノ費ト危險ノ虞ヲ省クヲ以テ古昔ヨリ
行ナハレタルモノナリ

因テ為換^リ取扱ハ早ク既ニ^レ業トナレリ
其故ハ^レバンケルハ衆人信ヲ措ク^ル多ク又彼レ屢々
他方ニ出テ業ヲ營ムカ為メ他人ニ代リテ其収入金
ヲ取立ルニ便ナレ^ル以テナリ尔後漸々為替事務及
抵当事務興起スルニ至レリ^コンバルトト公債
証各株券地金銀其他類似ノ物ヲ抵当トシテ貨幣ヲ
貸付スルヲ云フ此為替ヲ取扱ニ方テ利金ヲ得ル為
メバンケル^ル於テ^レス^レン^ト有期^ノ為替^ハ交換
前^ニ購^フハ此^日ヨリ其^期ヨリ至^レ迄^ノ日^數應^ル
貸付^スル^ル由^テ銀行^ノ商業^ノ景況^ノ渾^テ變^セリ如何^トナ
レハ此時^ヨリ有利^子委托^金ヲ預^リ而^シテ之^ヲ他^ニ
貸^付ス^ル或^ハス^レン^トノ為^ニ使用^スル^ル由^テナリ
前^ニ陳^述セル銀行^ノ事務^ノ起因^ノ歴^史上^ト或^ハ齟^齬ス

ル^レアル^モ測^知ス可^ラスト^モ虽^モ實際^上ニ於^テハ恐
ラク^ト此^ノ如^クアリ^レモ^ト信^セリ

第九章

クレ^シツ^トハ遅^クモ銀行^ノ事務^ト其起^リ同時^{ナル}ベ
シ或人^他人^ノ為^メ尽^セシ^テアリ^テ直^ニ其報酬^ヲ望
マサル^キ即^チ其人^ニクレ^シツ^ト与^フト云^フ今
其近例^ヲ取^リテ之^ヲ比^喩セ^ン茲^ニ甲乙^ノ両人^互
交易^ヲ為^シテ乙人^三頭^ノ馬^ヲ欲^シ甲人^之与^フル
ニ四頭^ノ牛^ト代^シテ^テ約^ス然^ルニ乙人^ノ有^スル牛
若^シ三頭^ニ過^サル^キハ之^ヲ処^スル^ニ他^ノ術^ナク乃
チ乙人^甲人^ニ先^ツ其三頭^ノ牛^ヲ与^フル餘^ノ一頭^ハ何
ケ月^ノ後^ニ之^ヲ与^フル^ル約^ヲ為^ス甲人^此約^ヲ承^諾
ス^レハ是^レ即^チ乙人^ニクレ^シツ^ト与^フル^モニ

レテ必ス乙人、何ヶ月、後餘、一牛ヲ交付スヘキ
ヲ信扱スルニ因テナリ而シテ是全ク交際未開時ニ
於テセバシクレジットト例ヲ示スモノニシテ又開明
時一例ヲ舉ゲン甲商鉄ヲ欲シテ乙商之ヲ賣与
セリ然レハ甲商此鉄ヲ販賣スルニ二月ノ時間ヲ
要スト臆美セルキハ乙商之ヲ如何スルヤ則チ甲商
ニ三月ノ月間ノ猶豫ヲ与ヘ是ヲ販賣セル後代リノ事
務即チ其拂フ為メヲ信扱シテ之ニクレジットトヲ与
フルモノナリ斯ノ如キクレジットト例ハ枚舉スル
ニ勝ヘスハ之ヲ以テ反隅スヘシ

第十章

代リノ事務ヲ直チニ為スヲ猶豫スルニハ借主ノ人
品即チ無形ノクレジットト或ハ実物即チ有形ノクレ

ジットトヲ基本トス猶ホ後章ニ是ヲ詳説スヘシ
クレジットトノ起リ之ヲ貨幣及ヒ為替ノ起先ニ比ス
レハ其由ニ来ル必ス久シ未ク貨幣及ヒ為替券ヲ以
テ交易ノ媒介品トセサル世代即チ品換交易ノ時既
ニ工人ノ農夫トノ間ニ行ナハレタルヘシ例之ハ上
人農夫ノ為メニ或ル工事ノナシ而シテ農夫直ニ其
代品ヲ与フル能ハサルキハ彼カ穀物ヲ収穫スル迄
是ヲ猶豫セシナリ

第二篇

クレジットト総論

第一章

銀行ノ性質ヲ詳明スルニ先クテ茲ニクレジットトノ
性質及ヒ其能力ニ就テ数々論説ヲ舉ケ示サン

古來經濟家、說ニ「クレジツト」トハ或人他人ヨリ後
日ニ代價ヲ拂フヘキ約ヲ信シテ之ニ物品ヲ与ヘ他
人ハ其約ニ由テ物品ヲ收メ得ルノ義ナリト「子ベテ
ス」氏及ヒ「ラウ」氏ノ説モ亦之ニ同シ「ロ」氏曰ク
後日ニ代價ヲ与フルノ約ヲ以テ他人ノ物品ヲ自由
ニ処分スルノ權ヲ得ル義ナリト「ミ」氏曰ク唯他人
ノ財本ヲ使用スル許可ヲ得ルノ義ナリト「ウ」氏曰
氏曰ク現在ノ勤務ト将来ノ勤務ト交易スルノ動作
即チ或人他人ノ後日ニ代リノ勤務ヲ為スニ差ハサ
ルヲ信シテ現時ノ勤務ヲ為スナリ之ヲ約言セハ財本
ニ代フル意思的ノ物ト云フ義ナリト「エ」氏曰
ク物品ノ代價ヲ要セスレテ他人ニ之ヲ使用スルヲ
許スノ義ナリト

今茲ニ「クレジツト」ノ解ヲ尚ホ明ニセシ爲メ其本原
ナル人易ノ事ヲ論スヘシ
交易ハ或ハ物品ヲ同價ノ物品ニ交換スルト或ハ勤
務ヲ以テ他ノ勤務ニ報酬スルトナリ而シテ交易ハ
其代リノモノヲ現時ニ与ルトニレテ「クレジツト」ハ
一方ニ於テシ其代リノモノヲ将来ニ酬ヒ一方ニ於
テハ期日ニ届リ其報酬ヲ得ルトヨク十分ニ信スルヲ
義ナリ
故ニ「クレジツト」トハ一方ニ於テハ現時受ケル所
ノ勤務ヲ将来ニ報酬スルニレテ一方ニ於テハ此
約ヲ信任スルノ謂ナリ
信任經濟ノ主トシテ現時ノ勤務ニ對シ将来ニ報酬
スルノ約ニ由テ成立ツ交易ナリ之ニ反對セル天然

經濟ハ勞力物品ヲ直接ニ勞力物品ト交易スルモノ
ニシテ貨幣經濟ノ媒介品ニ由テ間接ニ為ス交易ナ
リ

第二章

クレジットトテ產出ト消費トノ二分ニ分ル而シテ產出
的クレジットトハ經濟學上ノ一大緊件ニシテ此篇
於テ專ラ講明スルモノナリ
ワクチル氏云ク右二者ノ區別ハ貸付ヒレ貨物ノ使
用方ニ在リ產出ノ目的產出者ハ貨幣ヲ貸付シ及
商業取引ノ際物品ヲ貸付スルヲ云フニクレジット
トヲ使用スル是レ產出的クレジットト云ヒ其反對
ナル消費的ノ目的消費者ニ物品ヲ貸付レ及ヒ貧人監
禁者貨幣ヲ貸付スルヲ云フニクレジットトヲ使用スル

是レ消費的クレジットト云フ

第三章

クレジットトヲ受クレ者ノ人品上ニ就テ區別スル
ハ前条ノ區別ヨリ一層重要ナリ即チ之ヲ分ツ左ノ
如シ

イ	公	ノ	ク	レ	ジ	ツ	ト	
ロ	私	ノ	ク	レ	ジ	ツ	ト	
ハ	會	社	ノ	ク	レ	ジ	ツ	ト

イ 公ノクレジットト即チ國家郷黨州ノクレジットトハ
重ニクレジットトヲ受ケレ者ノ替滞ナク拂ヲ為ス
心意ニ基キ私ノクレジットトハ專ラ負債ヲ為セシ者
償却レ得ヘキカヲ認識スルニ在リ
公ノクレジットト本編後章ニ至リ更ニ之ヲ論述セサ

レカ故、茲ニ其一ニテ舉クヘシ
公、^{「フ」}レシットトノ一國或ハ一都府オニ於テ有スル
モノニレテ其私ノ「ク」レシットトノ別、^{「フ」}レ所ノモハハ
唯負債者ノ人品ト報酬勤務ノ種類トニ在ルナリ
通常公債ヲ分テ不定債既定債ノ二トス、不定債ハ拂
未濟ヨリ成立スル債ニシテ即チ政府紙幣、^{「澳」}地利
國ノ如シ、^{「英」}英國ノ如シ及ヒ政府ニ於テ債券ヲ抵当トシテ銀
行オヨリ借用セシ一時ノ債、^{「即」}チ^{「澳」}地利ノ「^{「デ」}ボット
諸債券ヲ出シテ債、^{「不」}動產各入債券、^{「北」}日耳曼聯邦金
庫債券、^{「換」}半^{「得」}前^{「促」}モノ交ノ類ヲ以テ借り入レシ債
是ハ
不定債ハ國家ノ經濟上ニ於テ甚ク不利ナルカ為メ

若干ノ歳入ヲ増加シテ其拂ヒ不足ヲ償完シ能ハサル
ハ^{「不」}定債ニ為ス、^{「大」}政府ノ困難ヲ醸生スルニ至ル
茲ニ佛、^{「澳」}二國ノ例ヲ舉テ之ヲ徵センニ佛ハ十億、^{「フ」}
^{「ラ」}ンク^{「九」}億^{「四」}万^{「二」}千^{「百」}六十^{「四」}年ヨ
リ千八百六十七年迄ニ從来若干ノ^{「不」}定債ニ尚ホ五
億二千五百万^{「フ」}ロ^{「リ」}ニ^{「九」}千^{「二」}万^{「四」}千^{「百」}增加セリ是ヲ以
テ鑒戒トナスヘシ
既定債ハ政府ノ歳入金歳出ヨリ多キニ於テ之ヲ
償還スルノ外更ニ策アレナシ然レモ各州種々ノ法
ヲ設ケ之ヲ償還セント謀リシテアリタレモ其中
償及ヒ抽籤償還ヲ最良トス
公債ヲ遍償スレニハ政府先ツ所有ノ証各額ヲ定メ其

利子ヲ以テ國債証各ヲ買戻 漸次ニ之ヲ還了スル
モ、ナリ 証各ノ製其分ヲ國債還局ニ買受
而シテ其利子般一却シテ債主ト同ク債還局ニ充
付ルニ其額ヲ以テ既買戻ニ同ク漸次ニ証各
買戻シテ亦增加スル利金漸次ニ增加シテ証各
抽籤ヲ以テ償還スル公債ハ近歲大ニ衆人ノ傾向ス
ル所トナレリ尤モ之ニハ有利子無利子ノ二種アリ
公債抽籤償還法、分テ三トス即チ左ノ如シ

第一 有利子公債償還法

第一 有利子公債「ブレ」レ金額ヲ定メ公債証
各別ニ最上トスルレ金ハ六十最下
公債証各別ニ最上トスルレ金ハ六十最下

償還法

第三 無利子公債「ブレ」レ金償還法

第一 有利子公債償還法、政府抽籤ヲ為シテ中籤ノ
証各ヲ其券面記載高ニテ買戻スモノナリ 本邦、抽
籤法

第二 有利子公債「ブレ」レ金償還法、政府利子額ノ内

幾分ヲ債主ニ拂ヒ其殘額ヲ「ブレ」レ金ニ充テ抽籤
ヲ以テ之ヲ付与スルモノナリ 此債ノ多キハ澳國ヲ
以テ第一トス千八百六十年ニハ二億「ブレ」レ金
四、巨額ニ及ヒ而シテ毎年二四ニ其利子及ヒ「ブレ」
金ヲ付与セリ 此証各ハ五百「ブレ」レ金ハ三十万
「ブレ」レ金ニ至リ六、百「ブレ」レ金ニ至ル

大歳省

第三 無利子公債
「ブレ」償還法、利子ノ全額ヲ渾
テ「ブレ」金ニ充ツルノミニテ其餘ハ有利子公債
「ブレ」償還法ト異ナルヲナレ然リトモ償還法
ノ最モ良キハ歳入金ノ贏餘ヲ以テ之ニ充ツルニ
過キス

英佛伊ノ三國ニ於テセシ如キ元金ヲ償還セスレテ
永久唯其利子ノミヲ拂フ「ブレ」債モ亦良法ト謂
フ可シ是レ政府ノ債主タル者ハ國債大帳ニ其姓名
ヲ記シ利子ヲ收入スヘキ債主タルヲ明ニスルノ
ニシテ別ニ証各ヲ与フルトナク而レテ年々定額ノ
利子ヲ拂ヘリ
公債ニ徵募スルニハ一般ノ記名約或ハ銀行ノ媒介
ヲ以テセリ然レモ政府「ブレ」債ト厚クシテ且ツ金

額ヲ要スルト甚ダ急ナラサルキハ記名約ヲ以テ徵
募スルヲ良トス銀行ノ媒介ヲ以テスルハ多クハ政
府「ブレ」債ト薄ク或ハ其需要極機ニ出テ又急遽ナ
レキニ在リ

強迫ノ公債ハ澳國曾テ數々之ヲ伊國澳國版圖内
ニ行セシモノニテ元來人民ヨリ公理ニ戻ル税ヲ徵
收シテ唯其利子ヲ与フル約ヲ為セシ如キモノナリ
〔ロ〕私ノ「ブレ」債ト即チ前ニ區分セシ第二ノ「ブレ」
債ト茲ニ説明スヘシ

前ニ開列セシ如ク「ブレ」債ト得タル者ハ代リ
勤務ヲ為ス契約ノミヲ以テシ或ハ其抵当物ヲ出シ
テ貸財ヲ借受スルト得因テ更ニ〔イ〕無形ノ「ブレ」
債トト小分シテ

大義省

之ヲ詳ニスヘシ

イノイ無形ノクレジットトハ人ノ信託スヘキ人品上ニ基ケル

無形ノクレジットトハ安全鞏固ナラシメノ為メ帳簿ト為替券トヲ作為セリ帳簿ハ法律上十分ノ証拠ト看做スヘカラスト雖此商業上ノクレジットトニ於テハ最モ緊要ナルモノナリ為替券ハ将来交換スヘキモノモ其需要ニ從ヒ前以テ現貨ト交換スルヲ得且ツ之ヲ他人ニ与ヘ通用セシムルノ便ヲ有セシモノニシテ人民相對上又裁判上ノ確証トナレモノナリ故ニ無形ノクレジットトヲ有形物トナセシ中ニ於テハ之ヲ以テ最モ良善ナルモノトス此他種カノ通用物及ヒ貨幣ノ代用ヲナスモノアリ即チ拂傳票受

托銀行証票即チ金庫証票銀行金券株券債券國債証書是ハ渾テ收入スヘキモノノ交換シ得ルノカ

有セリ

上ニ開列セシ事項ハ大ニ緊要ノ事ニシテ特ニ注意

スヘキハクレジットト債交換ヲ得ルノカト通用ヲ得

ルノカトニ在リ如何トナレハ此ハ相庭會社及ヒ銀

行ノ紹介ニ由テ成ルモノナレハナリ此相庭會社ハ

総テクレジットト証券ノ賣買ヲナスノ集点ニシテ銀

即チ金券發行銀行ニテハ金券發托銀行ニテハ拂傳

票ヲ以テ無形上及ヒ有形上ノクレジットトハ大ニ旺盛

ヲ致セリ

ロノロ有形ノクレジットトハ其抵当物財主ノ手ニ渡

ル否トニ在リ之ヲ掌握抵当クレジットトハ不動産各

大 債 省

入「クレジット」ノニ分ツ

イ「掌握抵当」クレジットハ其抵当ナレ物品証各ノ取
扱ニシテ銀行抵当貸付ノ事務ハ渾テ之ヲ以テ基本
トス而シテ此抵当物ハ凡ソ貴金屬証各國債証各株
券債券ホナリ物品或ハ航海貨物ノ送状ホナリ又入庫品預証各
ナルモノアリ之ハ港庫或ハ開稅未納物品庫内ニ積
藏セシ物品ノ受託証各ナリ英佛及ヒ瑞士ニ於テ漸々
之ヲ賣買スルニ至レリ是ハ庫中ニ尚ホ積藏セシ物
品流用活動ノ便ヲ為サン為メ其預証各ニ裏各ヲ以
レ以テ之ヲ他人ニ讓渡スモノナリ
入庫品預証各ハ銀行金券ト比肩シテ可ナリ如何ト
ナレハ二者孰レモ十分ナル抵当物有リテ一ハ港庫
ニ積藏セル物品ヲ以テシ一ハ銀行中ノ貴金屬ヲ以

テ其物品ト云ヒ貴金屬ト云ヒ抵当物タルハ何レ
モ同テナレハナリ然リト虽モ珈琲砂糖石油銅鉄亞
鉛ボノ類之ヲ金銀ニ比較セバ大ニ價格ノ昂低ヲ生
スルハ異ナルニ
日耳曼ニ於テモ入庫品預証各ノ法漸々行ナハル
ニ至ラハ人民常ニ抱ク所ノ疑團自ニ消滅スルヲ期
レ得ヘシ然レモ當今ハ其思考尚ホ狭少ナルヲ以テ
莫ハ之ヲ無記名トナスヲ得レモ日耳曼ノ商法ニ於
テハ記名ニアラサレハ之ヲ許スヲ得玉而シテ日耳
曼人ハ此外猶ホ種々ノ疑ヲ置クアアモ此亦漸々
以テ釈解スルニ至ルヘシ
縱ヒ是カ為メ交易上ニ於テ其物品ヲ他人ニ明曉ナ
ラシムルノ害アリト云ヒ或ハ物品ヲ抵当トナスハ

大蔵省

家産衰頹、兆ナリト云々或、相庭賭盛、行ナハル
ト云々或、高利ノ貸金盛ナルト云フボ、説アル
モ是オハ唯其一隅ヲ見テ一般ノ景況ヲ察セル論ニ
レテ決レテ方今經濟ヲ獎勵シ大利ヲ圖テ小害ヲ憂
ヒサレ文明世代ニ適當セル論説ト謂フヘクテス廣
ク之ヲ論スレハ此法實ニ開化ノ一大進歩ト云フヘ
ク如何トナレハ交易通商盛衰ノ由テ起ルハ物品ノ
多寡ニ関ルモノナレハ從來空ク積藏レテ其用ヲ為
サズリ物品此法ヲ以テ活動セルハ大ニ其業ヲ繁
盛ナラシムルニ至レハナリ

口 不動産 借入 クレジット トハ 惟フニ 地主家主ニ係ル
モノニシテ此借入ノ為スル特ト貴重スヘキハ 抵当ノ
物体ヲ明確ニスル事法律上之ヲ安全ニスル事貸主

之ニ他人ニ讓渡ス權利ヲ障礙セサル事裁判宣告ノ
後処分ノ手續ヲ便捷ニスル事ボナリ是オハ事能ク周
到セルニ隨ヒ談ヲレジットト益々鞏固ナルモノナリ
ハ 会社ノクレジットト其体裁ニアリイ 特准債券 口 典
当証券ナリ
イ 特准債券ハ 鐵道会社、工業会社ニ於テ其不動産
地而不動産ヲ抵当トシテ借受セル債ニシテ即チ會社債
券ナリ
特准債券ハ其利子一定ニシテ株券ノ如ク得益分配金
ヲ受ケルヲナクシテ利子ノ昂低アルモノニアラス而シ
テ此利子ハ株券ノ益金ヲ受ケルニ先シテ収得シ又
解社決算ノ際其取ルヘキモノヲ株券ニ先シテ収得
スル特別ノ權利ヲ有セリ

大 債 省

此特准債券ヲ發スルハ鐵道會社ヲ最モ多シトス而シテ會社ニヨリ其額巨ク巨大ニシテ殆ト株券高ニ超過セリ

茲ニ其例ヲ舉ケテ之ヲ徵センニ千八百六十七年ニ
 澳國鐵道會社株券ノ總高四億八千七百萬「クルデン」
 我ニ一億九千四「クルデン」ニシテ特准債券ノ總高五億五千三百
 萬「クルデン」ニ我ニ二億二千「クルデン」ナリキ

千八百六十七年ノ末ニ普國私築鐵道ノ官許株金總
 高五億九千四百五十萬「クルデン」ニ我ニ四億七千五百萬
 「クルデン」ニシテ特准債券ノ總高五億九千四百五十萬「クルデン」
 中ニ二億七千八百萬「クルデン」ニ我ニ二億零八百萬「クルデン」ニシテ特准
 債券ナリキ

口 典當証券ハ不動産唇入銀行ノ債券ナリ該銀行ハ
 多ク小額ノ株券資金ヲ以テ巨額ニ此當証券ヲ發行

其事業ヲ營メリ茲ニ其一例ヲ舉ゲセシニ澳國
 一般土地保信社ハ四百八十萬「クルデン」ニ我ニ九百九
 十萬「クルデン」ニシテ九千六百三十萬「クルデン」ニ我ニ三百四十
 十萬「クルデン」ニシテ典當証券ナリ

第四章

茲ニ亦私「クルヂット」ヲ小分シテ說明スル左ノ如

イ	農業「クルヂット」
ロ	工業「クルヂット」
ハ	商業「クルヂット」

右ノ三種族ニ「クルヂット」ヲ与フル為ノ興セシ會社
 ノ種類ヲ分テ三トス
 一 農業「クルヂット」ヲ農家ニ与フル為ノ興セシモノ

鐵道省

即

一 郷黨積金々庫

二 貯蓄金庫

三 農業保信義會

四 不動産各入銀行

興
工業クレジツトヲ勞作者^及工人ニ与^レテ為^ス

典
セシモノ即チ

一 貸金社、賑恤銀行、勸工銀行

二 保信社

ハ 商業クレジツトヲ商家^バシケレ會社ニ与^テル為

ノ 起セシモノ即チ銀行ナリ

大ナル銀行及ヒ中心銀行ニ於^テハ右三業ノ「クレジ

ト事務ヲ兼併スル「ア

英國ニテハ封建政治ノ各各地頭領地ニ起セシ孤兒

財產取扱所モ郷黨積金々庫ニ屬シ諫金庫ニ於^テ各

治下ノ人民ヨリ納付スル種々ノ貢物及ヒ孤兒ノ所

有金ヲ預^リシモノナリ而シテ當時ハ農夫ノ則金付

托所トモナリ夫レ緊要ナルモノナリシカ後世ニ至

リ各地頭治下ノ人民服從ノ羈軛ヲ解脫セシテ以テ

諫金庫自ラ衰頽セリ尔後之ニ代^ヘ種々ノ杜^ラ起^ス

蛭^尺皆ナ踵^ヲ接^シテ破壊セリ然^レ所以ハ農夫^特

貯金^ヲ金庫ニ附托^セマス好^テ國債証^各或ハ抽籤償還

債券ヲ購求^シタレハナリ

貯蓄金庫ハ郷黨積金々庫ニ比^セハ其基礎太^ク鞏固ナ

ルニヨリ方今猶ホ旺盛ニシテ七千万^クグル^テニ^凡我

万^ハ百^乃至^八千万^クグル^テニ^凡我

万^ハ百^乃至^八千万^クグル^テニ^凡我

万^ハ百^乃至^八千万^クグル^テニ^凡我

万^ハ百^乃至^八千万^クグル^テニ^凡我

万^ハ百^乃至^八千万^クグル^テニ^凡我

万^ハ百^乃至^八千万^クグル^テニ^凡我

「タルデン」凡四百四十萬、農夫ニ貸付セリ。普國ニ於テハ千八百六十九年ノ末ニ貯蓄金庫ノ數八百八ヶ所アリテ合計九千六百萬、凡我ニ千ニハ各入ノ貸付ニ用ヒ三千万、凡我ニ千ニハ普通證券ノ買収ニ用ヒタリト近年貯蓄金庫ハ不動産各入ノ事務取扱フノミナラス多クハ「ジスコント」ヲ為レ及ヒ「ロンバルト」事務ヲモ執行セリ然リト虽氏貯蓄金庫ニ於テハ農業ニ「クレジツト」ヲ与フルヲ十分ナラサルヨリシテ遂ニ單純ナル土地保信社ヲ起シテ漸々旺盛セリ

土地保信社ニ二種アリ第一地主ヲ以テ組織セル者即チ各州農業保信義會第二株主ヲ以テ成立セ

一者ノ別第一ハ社員互ニ相保証シ即チ一人ニテ餘衆ノ債ヲ保証シ或ハ一人ノ債ヲ餘衆舉テ其保証ヲ為スモノナリ日耳曼法律語ニ「共保証」義ナリ故ニ此義會ハ贏利ヲ得ルヲ為メ設立セシモ、ハラス然ルニ第二ハ株金ヲ以テ設立セシヨリ成ル可ク贏利ノ多キヲ欲セルナリ右二者ノ利害優劣ハ既ニ農業經濟學者多年之ヲ討論講究セル所ニシテ第一ノ法ハ第二ノ法ヨリ便ナルト虽氏一人ニテ衆員ノ負債保証義務ヲ負擔セルヲ為メ若シ多クノ災害一時ニ發出スルヲテ社員中唯一人ヲ餘レ餘衆尽ク之ニ罹ラハ一人ニシテ衆員ノ義務ヲ負荷セサルヲ得サルノ害アリ然レ氏第二ノ法ハ然ラス其保証唯該銀行株券ノ額ノ止ルヲ故ニ農業保信

美會ハ遠巡旺盛ニ至ラスレハ不動産各入銀行ハ却
駁々銳進ノ勢アリ
ソレニエルセワルウエハ氏歐洲第一等ノ土地保信
社即チ佛國ノクレディット・フランシエニ付テ論
テ曰ク佛國政府農業ヲ改良スルニハ必ス一方法
設テ之ヲ処置セシムヘカラサルトノ考案ヲ以テクレ
ディット・フランシエニ興レ農業ニ資本ヲ向ケント
企テリ而シテ該社ノ光耀ヲ成果ハ本来企テリ所
ノ目的ヨリ煥發セシム非ス其所以ハ該會ノ貸付金
多ク村落ノ為メニセシテ市街即チ佛國各都府ノ
家屋改築ノ為メトナレリ之ヲ為メ多ク市街其徒
康ヲ助ケ其觀美ヲ致シトシテ巴里府ヲ世界第一等ノ市
街トナセリ然リ而シテ該會社設立本来ノ主意ト徑庭

ハニ至リレハ毫モ會社ノ故意ニ出シモノニ非ス唯
財貨ヲ借受セント欲スレ地主會社ノ規定ニ背カサ
レハ証各ヲ以テセハ一回モ貸付ヲ拒辭セシトアリ
ト雖ハ地主ニ於テ多クハ其規定ノ半ヲ奉スル
ト能ハス殊ニ小農ニ至テハ最モ然リトス是ヲ以テ
農業ノ改良繁盛ナラシメント意ヲ用ヒレ目的モ遂
ニ屠龍ニ歸レタリ
多クノ農業保信社ニ於テモ右クレディット・フランシ
エト均ク其目的ヲ達レ小農夫ヲ救濟セシム太
稀
或ル美會ニ於テ抵当ニ受クル不動産ハ特別ノ委員
ヲシテ其價格ヲ積ラシメ而シテ多クハ典當債券ヲ
以テ之ヲ貸付セシナリキ此典當債券ハ純乎タル債

大藏省

券ニシテ之ヲ所有スルモノハ抵当不動産ノ一部分
 二種アリテ平常之ニ利息切手ヲ附セリ
 典當債券償還ノ方法漸次ニ確立シ近年ニ至リ年賦
 元金主即チ債券償還スルトナレリ而シテ此債券ハ
 昂低トキヲ以テ之ヲ賣却スルニモ亦便ナリ故ニ衆
 人利子ヲ得ンカ為ニ元金ヲ出シ好ニ此債券ヲ買収
 元金多クハ典當債券或ハ特准債券ノ買収金ニ係
 當債券發行ノ高ハ各定限ヲ終始其定限ヲ超

過ルレトテ得ス巴華登亞銀行ノ三千万クナル
 又保信社ノ貸金ハ最モ安全ニ抵當ヲ要ス可キ
 定規アリ安全ト云ハ決シテ一番質ヲ指ス義ニア
 典當債券ハ時價アリテ保信社ニテハ其價格多クハ
 典當債券ノ償還法ハ或ハ抽籤ヲ以テ或ハ期限
 十年二十年三十年ニ定メ或ハ定期年間ニ抽籤ヲ以
 テセリ而シテ談債券ノ賣却ハ多ク銀行或ハ公會ニ
 於テ負擔セリ然ル所以ハ之ヲ一私人ニ委スルハ必
 ス其時價大ニ低下スルニ恐レアレハナリ

金券ハ農業保信社ニ發行ヲ許可スルトヲ欲セス蓋
シ銀行金券ノ信託愛重ヲ得ルハ其通用ニ輕便ナル
ト純金交換ニ容易ナルトニ在リ然ルニ保信社ノ抵
當物タル現金交換ニ容易ナラスレテ多クノ時間ヲ
消費スルニ由リ金券ヲ發行セハ其通用ノ便自ヲ消
失シ且ツクレジットトフ人ニ与フレ即チ時間長ク
シテ之ヲ已レニ受ル即チ其時間短縮スルヲ以
テ大ニ銀行ノ主務ニ背馳セリ

第五章

工業ノ振起セシムル保信委員會貸付金庫及
ト通益社大ニ其益ヲナセリ耳曼ニ於テ斯ノ如
社ノ起セシハシユル功ナリ而シテ
性質タル同輩互相ノ保証政府或ハ私人ノ助

テヲ以テスルモアリテ成立セシモノニレテ其
起原ヲ案スルニ元來工業自己所有ノ財産無キニ
由リ隨テクレジット薄クシ其營業資本ヲ得シ
租テ難シ貯蓄金庫集蓄ノ金額縱ニ些少ナルモ之ヲ
他ニ貸与セサルカ為メ當時工人ハ最モ有力ナル勸
業ノ基本即チ資本ヲ失ヘリ故ニ之ヲ救濟セン為メ
該社ヲ結設セシナリ
又一ニ保證社ナルモノアリテ普國ノ貯蓄金庫ニ於
テハ該社員二名ノ保証アルキハ工人ニ財貸ヲ貸付
スルヲ以テ此社最モ西法里州ニ行レシ是レ多ク財
産ヲ有セシモノ聯合結社ニ而シテ社員二名ニ承
認セシ負債ハ該員金庫ニ對シ其保証トナリ餘員ハ
亦該員ニ對シ其保証人トナリ又義助金ヲ以テ

省

之ヲ起スモノアリ斯レ所ニ於テハクレジット即チ財
貨ヲ得シ為メ入社セシ者ハ該社事務上ノ利害得失
セス且ツ其事務ニ干与スルノ權ナク發起人即チ該
金預リ主之ヲ專裁ス而シテ貸付金ハ其利子ヲ收メ
ス或ハ收ムルモ甚ク僅少ナリ故ニ經濟上ヨリ之ヲ
論セハ該社ノ法ハ最モ下等ナルモノト云フヘシ
前項經驗上ニ於テ顯示スル事ニアリ即チ「イ」斯ノ如
キ設立所ニテハ、或助金ノ額貸付ノ目的ニ十分ナル
サル事「口」工人ノ種族自ラ該社ニ諸「債」ヲナスヲ欲
セサルカ故ニ貸付ノ目的ニ充分ナラサル金額モ猶
ホ其用ヲナササルノ時アル事ナリ
右「口」項ノ事情全ク自財根源トナリテ雇夫及「工
人」他人ノ恩惠金即チ或助金ヲ借受センヨリ寧「口

兵向ノ管理ヲ以テ利害得失ヲ各負ニ分任スル設立
所ニ於テクレジットトテ得ル「ト」ヲ欲スルニ及ヒ日耳
曼國共同結社法ノ保信或會任盛スルニ至レリ其詳
ナルハ後ニ之ヲ説明スヘシ
右ノ結社法ニ類似セル「レ」スコント銀行ト結合セシ
保信或會アリ斯ノ如キ或會ハ澳國最モ多シ即チ
下澳地利「レ」スコント会社ノ保信或會「米」蘭州ノ「レ」ス
コント銀行「ホ」ヘシヤ及「タ」スタエルマルク州ノ「レ」スコ
ント銀行維也納府第一等工業銀行ノ如キ是レナリ
此社モ亦共同保証ノ法ヲ以テ結合成立セシモノニ
シテ是カ為メ其公益ヲ為ス「ト」今ニ至ルマテ甚ク多
シ即チ下澳地利「レ」スコント会社ノ保信或會ハ維也
納府高工人ノ間ニ存在スル「ク」レジットトテ失フ「際

大ニ其益ヲ与ヘレ如キ是レナリ近年澳地利其他匈
牙利ボノ諸國ヨリモ亦入社スル者アルヲ以テ大ニ
隆盛ヲ極ムルニ至レリ
今爰ニ高工^建保信^義会ト自称スル会社ニ付テ論辨
スル^トアリ談社^ハ陽ニ壯宏ノ名アリト虽^モ其^レ實^ヲ省
スルニ毫モ交易工業ノ為メニ裨補スル^トナク却テ
高^ク法^ヲ為メ新^クタニ会社ヲ起スラ奇貨トレ或ハ相場
會社ニテ行フ近世發明ノ相場賭ヲナシ或ハ相庭ヲ
浮沈セシムル^ル周旋ヲナレ或ハ曖昧ナル^ル会社ヲ興
シ或ハ諸^ノ会社^ニ株券^ヲ賣買スル^ルホノ事ヲ以テ保信^義
會ノ業事トナシ^シ如キ是ナリ
^モシ^テ氏兄弟^ノ巴里^ニ於テ始テクレジツトモセ
^ル社^中動^産クレジツト^ト興セシ^ルル^ル目的ハ甚ク善

良^クリ^ト虽^モ氏今日ノ成果ニ至リテハ其目的ト大ニ
相反セリ抑モ西氏ノ目的^ハ各所散在ノ資本ヲ統集
シテ一大社會ヲ起シ而シテ他^ノ工業^ノ会社^ノ株券^ヲ買
上ケ諸工業ヲ一掌中ニ握収シ以テ市場ノ景況ヲ制
セント欲セシナリ此目的ノ實際ニ行ナハレ難キハ
固ヨリ前知セシ^ルヘシト虽^モ氏其工人^ノボヲ^テ尽ク^ク会社
ノ株主ト為シテ之ニ利益ヲ配付セントノ目的ハ極
テ佳ナリト謂フヘシ然レ^モ其背面ヲ覘ハ甚ク佳所
アルヲ見ス其所以ハクレジツトモビ^リル^ル為メ
自^ラヲ專賣ヲ興スニ至リテ諸工作競勵ノ自由即チ經
濟上ヨリ起ル所^ノ黽勉力^ノカ^ヲ為メ阻遏セラルヘシ
更ニ又一步ヲ進メテ之ヲ考フレハ蓋シ此会社ヲ管
理スル^ル甚ク難シトス如何トナレハ是^レカ^ヲ為メ安危

七
義
省

ノ係ル所持ニ僅々数人ニ止ルノミナラス若シ一般
ノ社会ニ影響ヲ生スルモ其責ニ任スルヲナキノ以
テナリ
佛日澳ノ三國ニ於テ設立セル渾テノ「クレジット」モ
ビリールハ初メ之ヲ興センルノ目的ハ大ニ「徑庭」
唯工業或ハ人造物天然物ノ大貿易ヲナスノミ
レテ固有ノ銀行事務ニ至ルハ之ヲ行ナハサリキ然
レテ新会社ヲ起ス即チ株券ヲ賣買スルヲ本業トシ
其事務ハ相庭会社ニ於テ執行セリ而シテ唯主ト
ル所ハ株券ニ多分ノ配付金ヲ与ヘント欲スルニ在
リテ之ヲ得ルニ如何ナル権謀術數ヲ用フルカハ談
社破産ノキニ至リテ明ク「ス」スルノ如キ会社ニ
於テハ自己ノ株券ヲ以テ相庭賭ノ高賣ヲナレ或ハ

賣残りノ株券ヲ以テ談社報告表中ニ託載セルヲア
リ猶ホ後章ニ之ヲ論辨ス

第六章

前ニ大別セル第三章ノ商業「クレジット」ヲ取扱フモノ
即チ純然タル銀行ノ右「クレジット」トモビリ「クレジット」具
ナシ点ハ談銀行規程ニ於テ高工業上相場賭ノ企
許可セサルニ在ルナリ而シテ談銀行ハ他人ヨリ「ク
レジット」ヲ取リ又他人ニ「クレジット」ヲ与ヘ即チ「クレ
ジット」ノ媒介人ニシテ銀行証票或ハ抵当債券ヲ發
行レ或ハ「寄託金」ヲ預リ以テ「クレジット」ヲ已レニ取
リ又為替券ヲ買収レ或ハ貸付ボヲナレ以テ「クレジ
ット」ヲ人ニ与フルモノナリ
銀行ノ事業二十年以來一層改良シテ其数大ニ播殖

七
歳
省

セリ而シテ文明トクレジツトハ銀行ト并立シテ
其歩ヲ進マ敢テ離レサルモノナリ
銀行ノ活動及ニ開進ノ状ハ後章ニ於テ之ヲ描クカ
如ク判明ニ説スルアテントス

